

外国為替証拠金取引と インターバンク市場との関係について

大西 知生

目 次

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. はじめに | 4. カバー取引のしくみ |
| 2. FX取引と銀行等の取引高比較 | 5. インターバンク市場参加者の行動 |
| 3. FX取引の傾向 | 6. 今後の展望 |

わが国では個人投資家などによる外国為替証拠金取引（以下、FX取引）が活発であり、銀行等による為替取引額を上回る規模を有する。彼らは逆張りやキャリートレードを選好する傾向があるが、それらはカバー取引を通してインターバンク市場に影響を与えている。FX取引の拡大は銀行等のビジネスモデルにも影響を与え、電子化やプライムブローカー・サービスの促進、また結果として取引の集中化を招いた。国内外の環境から見てFX取引は更なる拡大の余地があり、インターバンク市場への影響は一層強まるものと考えられる。

1. はじめに

「グローバルな為替取引は1日に5兆ドル」という表現がよくメディアなどでされる。これは国際決済銀行（BIS：Bank for International Settlements）が3年に一度実施している「外国為替およびデリバティブに関する中央銀行サーベイ（Triennial Central Bank Survey - Global foreign exchange market turnover）」によるものである。この調査は世界53の国と地域において銀行等の金融機関を対象に実施されており、為

替市場を分析する上で最もよく使われる統計の一つである。この統計によるとグローバルな為替取引は増え続けており、約10年前の2004年において1日1.9兆ドルであったものが13年のデータでは5.3兆ドルへと3倍近くになっている。

一方で、わが国ではこの統計に含まれていないもう一つの為替市場がある。それが本稿で取り上げるFX取引による市場だ。FX取引は個人などの投資家が預け入れた証拠金を元に差金決済等によって為替取引を行うもので、少額の資金で大きな利益を狙えるところに特徴がある。FX取引は



大西 知生（おおにし ともお）

ドイツ証券(株)外国為替営業部長。1990年慶應義塾大学経済学部卒業。同年東京銀行入行。ドイツ東京銀行、ドレスナー銀行、JPモルガン銀行、モルガンスタンレー証券等を経て2005年よりドイツ銀行グループに入社。現在、東京外国為替市場委員会副議長 同Code of Conduct小委員会委員長。